

自己評価及び外部評価結果(NPO法人地域生活サポートセンター研修用改編版)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073500318		
法人名	社会福祉法人慈愛会		
事業所名	グループホーム富の里		
所在地	福岡県糸島市富508-4		
自己評価作成日	令和3年12月5日	評価結果市町村受理日	令和4年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	第三者評価委員 認知症介護指導者 青柳敏雄		
所在地	糸島市志摩久家2527番地の2		
訪問調査日	令和3年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 2階がグループホーム、3階は生活支援ハウス。緑に囲まれ静かな雰囲気です。利用者は居室に戻り、テレビ視聴や体を休めるなど思い思いに時間を過ごしています。食堂フロアでは、塗り絵や手作りのパズルなどを好んで行っています。職員は、利用者支援や利用者と一緒に家事全般を行いながらそれぞれの時間を大切にされた支援に取り組んでいます。また、ICTを取り入れ、状態チェックを時間を追って記録し、健康管理・生活面の把握に努め、利用者との関わりを深めています。職員は、一人一人を大切にされたケア・支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食堂などの共有スペースで、ご利用者同士が談笑しながら洗濯物量や、庭掃除など役割を意識して行っていた。コロナ禍で地域の方との関わりをつくる事は難しい状況ではあるが、その分職員と一緒に過ごす時間を意識して設けることで安心した生活を維持できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 (NPO法人地域生活サポートセンター研修用改編版)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所の誓いを毎日唱和することで、職員は共有した介護理念を実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお宮清掃は、職員の継続した参加が出来ている。また、地域の方参加の防災訓練を事業計画に組み込んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、内部での運営推進会議・外部の方参加の運営推進会議を開催。コロナ禍の中での利用者活動や、感染予防対策などを報告。質問事項で上がった事柄は、会議などで報告、検討していく。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新時など利用者の状況を伝えている。また、事故報告書の提出時にも事業所の実情を話している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を中心に禁止になる具体的な行為を正しく理解できるよう研修を繰り返し行っている。また、玄関に施錠をしないなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者ご家族へ運営推進会議の案内文章を毎回発送し、参加を促している。会議の中で出た意見は職員へ伝え、改善策などの提案を行っている。また、面会時にご家族から意見などを頂く事もある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映	...		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議の中で、職員の意見や提案を聞く機会としている。また、人事考課面接でも、職員の意見や提案をきき反映できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でも、ご家族や近親者の顔が見られるよう、LINE・窓越し面会で支援している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、コミュニケーションをとり本人が発する言葉や行動を把握し思いや、意向をくみ取っている。また、ご家族から生活歴など情報を得て本人本位に検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の中で、ミニカンファを行う。職員からの意見やアイデアを反映したプランを作成。PT・栄養士・看護師など多職種の参加の担当者会議で、現状に即した介護計画としている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかりつけ医の確認を行う。利用者、ご家族の希望、意向を受け継続や変更などを相談。適切な医療を受けられるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、利用者が重度化した場合の事業所としての対応を説明し、方針を共有する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1度、防災委員が防災研修を企画、実施されている。日中・夜間の避難訓練、風水害による災害対応など全職員に周知している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉一つで利用者の気持ちが変わってしまうため、相手の気持ちを考え言葉かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものや、自身が得意とする料理などを尋ね、食への興味を持って頂く。行事の際は、なじみの料理と一緒に作り食べていただくなどの企画。食後の		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の意思表示が出来ない方には、排泄の間隔を把握して、排泄誘導を行う。また、排泄を意味する動きをサインとして受け止め、誘導を行い失敗を減らしている。吸収量の多いパットを使用するなど個人に合わせた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者個人が入浴できる時間帯や身体状況を把握して、入浴の有無を尋ねて気持ちよく入浴できるように取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で戸外に出かけることがほとんど出来なかった。家族との面会を、その時の状況に応じてLINE・窓越し・ベランダ越し・対面等感染防止対策を取り、家族との途切れない関係に努めた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が良く集まる食堂や廊下周辺ではゆっくり座って過ごせるように椅子の配置をしている。利用者に不快にならないよう音や明るさなどに配慮している。毎月の壁面で季節感を取り入れている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、居室の私物は馴染みの物があれば持ち込みが可能であることを伝えている。落ち着いて過ごせるよう写真や時計、椅子などを置いている。		

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人理念、事業所の誓いを毎日唱和することで、職員は共有した介護理念を実践につなげている。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域のお宮清掃は、職員の継続した参加が出来ている。また、地域の方参加の防災訓練を事業計画に組み込んでいる。	コロナ禍での地域と事業所の関わり、活動を行っているか⇒毎月第3日曜日のお宮掃除の参加。地域交流会の中止に伴い、地域の清掃活動(児童の下校の見守りを含め)を富の里の職員で行っている。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今年度は、内部での運営推進会議・外部の方参加の運営推進会議を開催。コロナ禍の中での利用者活動や、感染予防対策などを報告。質問事項で上がった事柄は、会議などで報告、検討していく。	会議内で上がった質問事項。具体的にどんな質問があったか⇒質問ではなく意見を頂いた。委員会でのアンケート結果を公表した際に、具体的な意見をもらうためには、再度アンケートを取ることが必要ではないかとの意見を頂く。職員に身体拘束・高齢者虐待防止についてアンケート実施を行う事を会議で説明。具体的な意見が出せるよう、質問事項を変更してアンケートを実施した。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	介護保険の更新時など利用者の状況を伝えている。また、事故報告書の提出時にも事業所の実情を話している。			
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を中心に禁止になる具体的な行為を正しく理解できるよう研修を繰り返し行っている。また、玄関に施錠をしないなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待防止研修と共に年2回以上の研修を実施し、日々の朝礼などでも注意を呼び掛けることができている。職員の聞き取りからも、日々の意識がけが伺えた。

6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	身体拘束廃止と同様に、委員による高齢者虐待防止についても研修を行い、不適切なケアについて話し合い、高齢者虐待防止に職員全員で取り組んでいる。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	身体拘束廃止研修と共に年2回以上の研修が実施できている。管理者は現場職員への声掛けや関わりを意識しており、話しやすく、意見しやすい雰囲気を作れている。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	成年後見制度に関する資料を職員全員に配布し周知に努めた。現在制度を利用している利用者についても知っていただく。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入所時の契約は、重要事項説明書をご家族に説明を行い、契約する。説明を行う際にご家族の不安や疑問点を尋ねている。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者ご家族へ運営推進会議の案内文章を毎回発送し、参加を促している。会議の中で出た意見は職員へ伝え、改善策などの提案を行っている。また、面会時にご家族から意見などを頂く事もある。	少しでも参加して頂けるように日時の希望に関するアンケートなど、参加率を上げる努力は何かしているか⇒どのようなことを知りたいのかアンケートを取る。内容の工夫は利用者と家族が会える時間とする。交流の時間。利用者の日常をスライドにしてみたい等	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ご家族への運営推進会議の案内など最低限はできていますが、参加が少ないことが多いので、ご家族の参加を少しでも多くするための積極的な手段、行動を今後、期待したいです。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	グループホーム会議の中で、職員の意見や提案を聞く機会としている。また、人事考課面接でも、職員の意見や提案を受け反映できるよう努めている。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の勤務状態や人事考課の自己評価などで、職員の意向をとらえやりがいや向上心をもって働ける職場環境を整えている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	人事考課制度による評価、面談により、職員の異動希望や適材適所を見極め、新たな事業所への異動を勧めるなど、やりがいを持ってもらえるようにしている。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人では、入職前に法人全体での研修、入職後は各施設での研修と充実した体制を取っている。キャリアに応じた法人内外の研修の受講を進めている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入職前から入職後もステップアップ研修も定期的に行っており、職員の聞き取りからも平等に研修が受けられており、内容も充実しているとの意見が聞かれた。

13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍で交流できる機会が少ないが、インスタやフェイスブックでの発信はできている。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の出来る家事手伝いなどを一緒にすることで、生活を共にしている者同士の関係づくりに努めている。			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍でも、ご家族や近親者の顔が見られるよう、LINE・窓越し面会などで支援している。			
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の暮らしの中で、コミュニケーションをとり本人が発する言葉や行動を把握し、思いや意向をくみ取っている。また、ご家族から生活歴など情報を得て本人本位の支援に努めている。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	会議の中で、ミニカンファを行う。職員からの意見やアイデアを反映したプランを作成。PT・栄養士・看護師など多職種の参加の担当者会議で、現状に即した介護計画としている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	前回のプランの見直しの際など、現場スタッフの意見を積極的に求め、スタッフから見たご利用者の困り事や、スタッフ自身が困っていることを把握しやすくし、プランに反映できている。	
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎日バイタル・食事・排泄・入浴をチェック。タブレットで管理。ケース記録は、日中・夜間の状況を記入。状態の変化の把握を行い受診時など、医師との相談にも活用している。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない		
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍では、対面での面会が困難であるため、利用者ご家族の状況により、LINE 窓越し・ペランダでの面会などに取り組ん			

				でいる。家族への便りには、行事での写真を同封している。			
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域の方参加の防災訓練でグループホームの利用者の安全な生活を支援されている。			
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入所前にかかりつけ医の確認を行う。利用者、ご家族の希望、意向を受け継続や変更などを相談。適切な医療を受けられるよう支援している。			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の入院時には、治療期間を確認。病院関係者と情報交換を行い、早期の退院が出来るよう準備を行う。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	病院側に治療期間、入院期間の確認を行い、病院関係者との情報交換を積極的に行っており、早期の退院に繋がるよう互いの意識の共有ができています。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入所時に、利用者が重度化した場合の事業所としての対応を説明し、方針を共有する。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入所時に重度化した場合の事業所としての対応、方針、他施設や病院への紹介などの流れを詳しく説明できている。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	急変時に、バイタル測定・酸素吸入などがスムーズに対応できるよう研修を受ける。また、日々の生活の中で看護職員よりアドバイスを受ける。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	2か月に1度、防災委員が防災研修を企画、実施されている。日中・夜間の避難訓練、風水害による災害対応など全職員に周知している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍で地域の方の参加はできなかったが、防災委員が考えた研修の実施、昼夜の避難訓練、消火器の使用訓練などが行っていた。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	言葉一つで利用者の気持ちが変わってしまうため、相手の気持ちを考え言葉かけを行っている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員の聞き取りからも一人一人意識はできているが、夜間など職員が少なくなる時間帯は焦りから言葉かけや対応が疎かになってしまうことがあるとの職員の意見があるため、今後の課題として取り組んで欲しい。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	起床・就寝時間を決めず、その日の自身の状態で1日を過ごしていただいている。今何が飲みたい、入浴は何時ごろなど簡単な意向を尋ねている。			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食べたいものや、自身が得意とする料理などを尋ね、食への興味を持って頂く。行事の際は、なじみの料理を一緒に作り食べる等の企画。食器洗浄を一緒に行う。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍で積極的に一緒に料理を作ることはできていないが、行事の際は盛り付けを依頼するなど、できる範囲内でご利用者と協力する場面を作り、食事を楽しんでもらえる工夫が伺えた。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事・水分量は毎食記録している。摂食不良の方については、栄養補助食品を摂って頂く。水分量増加を図るため、嗜好を把握して水分量の増加に努めている。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ひとり1人の義歯の状態などを見て口腔ケアを行っている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	尿意・便意の意思表示が出来ない方には、排泄の間隔を把握して、排泄誘導を行う。また、排泄を意味する動きをサインとして受け止め誘導を行い、失敗を減らしている。個人に合わせた吸収量の多いパットの使用をするなどの支援を行っている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々のご利用者の排泄パターンをチェック表を活用して把握できるようにしている。また、利用者の排泄サインを捉え、随時容室ができている。

32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者個人が入浴できる時間帯や身体状況を把握して、入浴の有無を尋ねて気持ちよく入浴できるように取り組んでいる。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	夜間の睡眠状態、起床時間を把握して、体調を整えるため午睡を促す。夜間不眠の利用者には、職員と一緒に過ごし不安なく入眠できるよう働きかける。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者が使用している薬の目的など受診後の記録を確認して理解している。誤薬がないように配薬するまでに2重のチェックを毎回行っている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員一人一人が個々のご利用者の服薬内容が分かるようにチェック表に表記するなど、ミスが起きないように思慮できている。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者一日の中で楽しめる時間が作れるよう生活リハビリに取り組んだり、出来る事の把握を行い、洗濯物量、食器洗浄などの役割を持っていただく支援をしている。	利用者の出来ること、出来ないことの把握を行う。日常生活の中で、一緒に出来る家事を行い、役割となるよう支援している。楽しみを見つける場合も同様で、個人にあった脳トレパズル、塗り絵、集団でのレクリエーション等が出来る支援を行っている。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍で戸外に出かけることがほとんど出来なかった。家族との面会を、その時の状況に応じてLINE・窓越し・ベランダ越し・対面等感染防止対策を取り、家族との途切れない関係に努めた。			
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	小口現金は職員管理で行っている。利用者が希望する食品・衣類・雑貨等の買い物支援を行っている。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	携帯電話を所持し、家族への連絡を希望した場合は携帯電話を使用できるよう支援している。面会が制限されているため、家			

				族への便りに行事の様子などの利用者の写真を同封している。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者が良く集まる食堂や廊下周辺ではゆっくり座って過ごせるように椅子の配置をしている。利用者に不快にならないよう音や明るさなどに配慮している。毎月の壁面で季節感を取り入れている。	居心地の良い共用空間づくり。共用スペースとして活用してほしい。1階は暗い感じがする⇒中庭にテーブル・椅子を設置。いつでも、外で茶が飲める、くつろげる場としたい。冬は掘りこたつにはいる等季節を感じられる環境づくりを行う。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	共有スペースには掘りこたつがあり、雰囲気は良いが身体レベル的にあまり使用、活用できていないようですので、勿体ない。また、中庭や食堂外のペランダなど十分なスペースはあるが、雑然としていたので、もっと共有スペースとしての環境を整えることができるのではないかと。
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個人の思いが把握できるように、日々の関わりを多く持ち、利用者の発する言葉やサインでくみ取っている。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入所前には生活歴や家族との関わりを情報収集している。入所後は、アセスメントを行い暮らしの習慣・特徴を把握してケア・支援を行っている。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎日状態チェックを行っている。定期的な受診を行っている。安全面を考慮し、環境整備に努めている。		A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎日のバイタルチェックに加え、経過記録による状態把握に努めることができている。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	生活歴などを把握することで、これまでの暮らしの習慣にあった生活が送れるよう努めている。			
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家族の写真や、自宅で使用していた家財道具、衣類などを持っている。また、位牌や仏壇を持参されている。		A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者個々が思い思いの家財道具や仏壇、写真など持ち込まれており、自分の部屋という環境になっている

45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍のため外出が出来ていない			
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員は、利用者の状態把握を行い家事手伝いなどを依頼している。また、好む活動を個人に合わせて提供している。			
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	馴染みの関係が出来ている利用者同士と一緒に過ごし家庭の事や自身の思い出を、いきいきと話されている。また、庭掃除などを率先して行う場面がある。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食堂などの共有スペースで利用者同士が談笑しながら洗濯物置みや、庭掃除など役割を意識して行っており、笑顔が多く見られていました。	
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員や他利用者との交流になっている。			
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	グループホームで暮らすことで安心した、穏やかな日々を送ることが出来ている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍で地域の方との関りを作ることは難しい状況ではあるが、その分、職員と一緒に過ごす時間を意識して設けることで安心した生活を維持できている。	